

面接試験の心構え

面接は「話し合いにより、自分の意志を相手に伝え、自分を理解してもらうための重要な手段」という意義を持っています。また、会社は「期待する社員像に近い人物を選べる」、「本人の入社意志が固いかを確認できる」などの理由で面接を行っています。面接官はたとえ短時間でも面接を通して、本人の日頃の生活の様子、意気込みなどを見抜いてしまいます。日常生活の中で、正しいマナーや態度を養っておくとともに、面接に備えて事前に準備しておきましょう。

1. 面接官が見るポイントと対策

(1) 第一印象（身だしなみ）・挨拶

初対面の人によい印象をもってもらうには、身だしなみと挨拶が大切です。清潔感のある身だしなみは高く評価されます。この手引きで推奨されている服装・身だしなみを確認し、頭のてっぺんから足の先まで、身だしなみに十分気を配りましょう。また、受付や出会った人に進んで挨拶するよう心掛けましょう。さらに、自分の長所を自覚してそれをアピールすることも第一印象をよくします。（例えば、「笑顔」や「元気な声」など）

(2) 態度・動作・話しぶり

①入退室動作

入室時・退室時のマナーや一連の流れをしっかりと覚える。

②お辞儀

正しい礼の仕方を確認し、その通りにできるか、何度も練習を繰り返し、流れるように自然な動きの中でお辞儀ができるようにする。

③座り方

スムーズな椅子の座り方を体で覚えておく。座っているとき、背筋をまっすぐ伸ばし、背もたれにもたれず、正しい姿勢を保つ。

④声の大きさ

面接官が聞き取るのにちょうどよい声の大きさで話すことに心がけ、語尾まではっきり聞こえるように話す。

⑤言葉遣い

面接は友人と話をしているわけではない。敬語を正しく使い、正しい言葉遣いをする。略語・流行語や若者言葉は使用しない。

⑥話し方（コミュニケーション能力）

面接官の話をしっかりと受け止め、自分の意見をはきはきとした言葉で明確に伝える。ふだんの会話よりも少しゆっくりとしたスピードで、相手の顔を見てはっきりと発音する。語尾を伸ばしたり、上げたりする話し方をしない。

(3) 話の内容…理解力・表現力

①理解力

質問内容を正しく理解し、その内容に相応しい応答をする。

②表現力

質問内容に対し、「はい」「いいえ」だけで終わらせず、自分の考えを分かりやすく正確に伝える。長すぎず、短かすぎず、筋道を立てて簡潔に話す。

2. 面接に向けて準備すること

(1) 心の準備

「職業人」として「仕事」に対する意欲・熱意を言葉で説明できるようにする。

(2) 知識の準備

- ①会社についての知識を深める。企業見学に積極的に参加し、ホームページなどで企業理念や製品など会社案内をよく読む。
- ②社会の動きについての知識・常識を深める。新聞の第1面や重大ニュースなどの重要事項をメモする。自分の意見をまとめる。
- ③自分自身を知る。自分の長所や特技・趣味を簡潔にまとめる。学校生活（生徒会活動・部活動・文化祭など）とアルバイトの両立についてまとめる。

3. 面接試験の手順（注意事項）

試験会場の受付・控え室から帰るまで受験生の態度は評価されている。

(1) 受付・控え室で

試験開始の10分前には会場に到着する。

スマートフォンの電源は切り、カバンにしまっておく。

控え室では着席して、静かに自分の順番が来るのを待つ。

自分の名前を呼ばれたら大きな声で返事をして、面接室へ向かう。

(2) 入室

ドアを軽く3回ノックし、室内からの応答を確認してから静かにドアを開ける。

入室後ドアを閉めたら、その場で面接官の方を向く。

直立のまま面接官の方を見て礼をする。「失礼します。」と言う。

(3) 着席

「失礼します。」と言い終わったら視線を面接官に戻し、椅子に向かって歩く。

椅子の横に立ち、もう一度、今度は丁寧に深く礼をする。

「岐阜県立飛騨高山高等学校から参りました〇〇です。よろしくお願ひします。」と大きな声で自己紹介する。

着席を勧められてから返事をして座る。

＜着席姿勢＞男子は手を軽く握って膝の上、女子は手を軽く組んで膝の上

(4) 質疑応答の対応

視線…面接官の顔（あごやネクタイの結び目あたり）を見る。

手足…頭をフラフラさせない。手足を動かさない。

声…面接官が聞き取りやすい声の大きさで、語尾まではっきり聞こえるように話す。

言葉遣い…正しい言葉遣いをし、略語・流行語は使わない。

(5) 退席

面接官から「終わります。」と告げられたら、椅子の横に立つ。

「ありがとうございました。」と言って、礼をする。ドアの方に向かって歩く。

(6) 退室

ドアの手前まで来たら、立ち止まる。

室内へ向き直り、面接官の方に向って「失礼しました。」と言ってから礼をする。

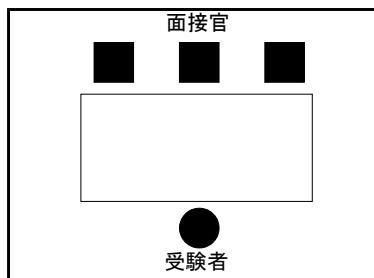
ドアを開けて退室する。

II 面接の種類

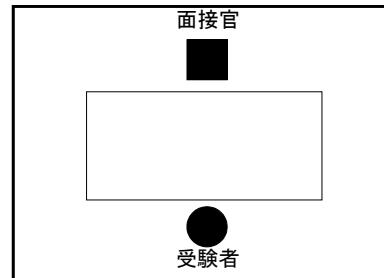
面接の種類とその対策を確認しよう。面接の方法には、大きく分けて、個人面接と集団面接がある。それぞれの形態について予備知識をもっておこう。

1. 個人面接

(1)面接官が複数



(2)面接官が一人



[形式]

面接官は3～5人、時間は10～20分程度。

面接官の質問は、あらかじめ用意されているが、話のすすむ内容によって変化する場合がある。

[ポイント]

面接官が多いので緊張するが、代表で質問している面接官に顔を向けて、答える。

[形式]

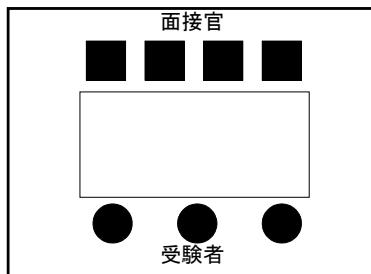
時間は10～20分程度。

[ポイント]

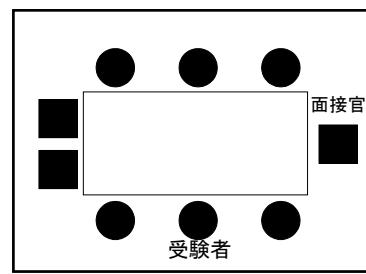
面接官が一人なので、比較的に落ち着いて面接できる。しかし、一人の面接官によってすべて評価されるので、気を抜かずに応答すること。

2. 集団面接

(1)集団面接



(2)グループ討論



[形式]

受験者3～5人をいっしょにして、複数（3～5人）の面接官が質問をする。時間は30～40分程度。同じ質問に一人ずつ答える場合と、質問を変えて順番に答える場合がある。

[形式]

複数の受験者が一つの課題について討論をする。時間は1時間程度。

[ポイント]

集団面接よりも、各自の考え方や態度・主体性などが重視され、比較される。

[ポイント]

他の受験者と比較されやすい。

自分の意見をはっきり述べ、他の人の意見に耳を傾けておくこと。

III 面接時の身だしなみ

女性

- 髪の色は黒または、明るすぎない茶色。
- 長い髪は束ねておく。
- 前髪は目にかかるないようにし、ピンで留めるなどお辞儀をしたとき顔にかかるないようにする。
- 厚化粧は避け、健康的で自然なメイクにする。
- カラーコンタクトはつけない。
- 爪は清潔感のあるよう切り、マニキュアは塗らない。
- アクセサリーはつけない。
- 素足ではなく、肌色のストッキングを履く。
- 靴は黒色のパンプス。(ヒールの高さは5cmまで)
ヒールの高すぎるものは避ける。
- シワやほつれ、汚れのないシャツとスーツ。
- シャツのボタンは全てとめるか、開けても第一ボタンまで。
- スカートの丈は、座ったときに膝にかかるくらいの長さ。

男性

- 寝癖のない黒髪。
- もみあげが耳にかかっていない。
- 襟足が長すぎず、清潔に保たれている。
- ヒゲはきちんと剃り、剃り残しがない。
- 眉毛は細すぎない。
- 爪は伸び過ぎてなく、清潔に保たれている。
- 靴下はスーツに合うダークカラー。
- 靴はつま先に飾りがなく、あまりとがってないもの。
- シャツやスーツにシワやほつれ、汚れがない。
- ズボンの折り目がしっかりとついている。
- スーツのボタンは一番下のボタンは留めないで開けておく。
- 肌着はワイシャツから透けて見えず、襟元から見えていないようにする。
- 首元に少し余裕のあるワイシャツで第1ボタンまで留める。
- 襟がボタンで留まっていないワイシャツを着る。
- 無地や細いストライプ、小さいドットなどシンプルなネクタイをしめる。